

平成26年度事業計画書

(平成26年9月1日から平成27年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

特定非営利活動法人フードバンク関西は、本年度、活動12年目を迎えます。2003年4月の活動開始以来、「食べ物は命の糧、大切にしたい」の思いに、皆様からの共感を得て、フードバンク事業を継続して参りました。現在食品提供企業は42社、受け取り団体は96か所になりました。フードバンク関西で扱う食糧を、困窮状態に陥った市民への緊急食支援に活用する食のセーフティネット事業にも取り組んでいます。このように、事業を継続できますのも、皆様からのご支援の賜と感謝し、一層事業内容の充実を図る1年となるよう、ボランティア一同、心を合わせて努力したいと考えます。

(1) フードバンク事業

1) フードバンク関西は、昨年度に引き続き本年度も、食品関連企業から品質に問題のない余剰となった食品を引き取り、要支援生活者の自立を支援する非営利福祉団体に、これらが無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。

平成24年度、25年度と、取扱食品量の減少が続いていますが、受取団体には月3回の頻度で食品のデリバリーが出来ており、今後は分配食品の種類を増やし、特に主食、副食の食材の確保に努力したいと考えます。

そのための食品企業訪問を継続します。

2) 今年度からの新しい取組みとして、市民の皆様の協力を得て、家庭の余剰食品を持ち寄って寄付する「フードドライブ」の仕掛け作りを始めます。

「フードドライブ」とは、家庭に保管されたまま忘れ去られ、賞味期限が過ぎると廃棄される食品を、賞味期限が切れる前に回収し、福祉に活用する取組みです。

実は、家庭から廃棄される「まだ食べられる食品」は、日本国内で年間200万トンから400万トンと推測され、食品関連企業から出される食品ロス量をはるかに上回っています。これら家庭からの廃棄食品の中には手つかずの食品が22%も含まれ、その4分の1は賞味期限も切れていなかったという調査結果があります。これら食品は再利用、再活用のお機会はなく、全量がゴミとして処理されています。

このように、まだ食べられるけれども不要となった食品を、企業、地域、学校その他グループのチャリティ行事として、参加者が持ち寄り、集めて、フードバンク団体に寄付する行事が「フードドライブ」です。

この取組みにより、参加者は自宅の台所を点検する機会を得て、我が家の「もったいない」食品の多さに気づき、自分の消費行動の問題点を自覚する事が出来ます。

また、お金の寄付は敬遠するが、家にある食品一つなら寄付出来るという事もあり、「フードドライブ」を通じて、お互いに支え合う社会作りへの、参加の第一歩にもなるという素晴らしい効果もあります。

フードバンク団体にとっては、フードドライブの事前告知をする時、集めたい食品の種類を指定する事ができ、支援を必要とする人達が最も必要とする食材集めを効果的に実行する機会にもなります。

(2) 食のセーフティネット事業

平成25年度中に、事業協定を交わした地域が芦屋市、尼崎市、伊丹市、西宮市、川西市と5市になりました。さらに宝塚市、神戸市との話し合いも始まっています。

実際にこの仕組みが稼働している地域での、各市からの支援要請は、時間経過と共に頻度が増しています。これは、すでに事業協定が結ばれている地域内で情報が周知され、困窮者支援の一つの手段として、効果が確認されてきた結果と考えます。

平成27年度から施行される「生活困窮者自立支援法」への対応を、各地域行政は本年度中に企画、決定をしなければならぬ状況にあり、その中でも、緊急食支援は、不可欠な要素となります。この機会に行政に強く働きかけて、緊急支援食糧を確保するのに必要とする経費の一部負担を、予算として組む事をお願いしたいと考えます。

(3) 運営基盤強化のための取り組み

私達が抱える最大の課題は、日々拡大する活動に必要な運営資金を、継続的、安定的に確保するための方法、仕組みの構築が模索の状態にある事です。

本年度は、「フードドライブ」、「食育プログラム」等、たくさんの市民に参加していただく取り組みを始めます。これに並行して、当法人の活動への理解を求め、賛助会員を増やします。

徒に高額の助成金や補助金の獲得に走る事無く、私達の活動を継続して支えて下さっている賛助会員の皆様に大切にし、「会員個人の負担は軽いから毎年継続できる。」「フードバンク関西は今、どのような活動をしているのか、いつでも分かる」と言っただけのような、皆様への情報公開と、ご支援をいただきやすいNPOであり続けていきます。

ここ数年の間に、フードバンク団体が日本に次々と生まれて現在40団体を数える程になりました。しかしながら、フードバンク事業は、食品ロス削減に取り組む農林水産省の後押しがあっても、食品をフードバンクへ寄贈する企業はまだまだ少数であり、事業から全く収益が上がらないので、運営団体は食糧や資金の確保が大変です。

フードバンク関西は、必要とする食糧の大半を、地域の企業や市民の皆様からの寄付で集め、運営資金も賛助会員と寄付をお寄せ下さる皆様の温かなご支援で賄い、専従職員を置かず全員がボランティアで運営している、フードバンク団体の中では珍しい存在です。この事業形態は、急激な進歩や規模の飛躍的な拡大には不向きですが、福祉施設や地域と良い関係を保ち、参加者が楽しみながら協力して、地道に少しずつ事業を拡大していく事が出来ます。

「命の糧である食べ物を大切にし、まだ食べられるのに廃棄される食品を引き取り、それらを必要とする人達に届け、「ありがとう」が飛び交うフードバンク関西の日々の活動を、ずっと継続していきたいと考えます。ご支援をよろしくお願い致します。